

地域 おこし 協力隊

今、都市に住む人たちは、さまざまな理由で豊かな自然環境や歴史、文化などに恵まれた「地方」に注目しています。
本市にも、多数ある自治体の中から天草を選んで移り住み、地域の宝を掘り起こしたり、それらを生かそうと活動している「地域おこし協力隊員」がいます。今号では、彼らの取り組みを紹介します。

地域おこし協力隊って？

都市地域から地方に生活の拠点を移した人を地方自治体が「地域おこし協力隊」として委嘱。隊員となった人は、一定期間、その地域に居住して地場商品の開発や都市部への売り込み、地域づくりの支援を行いながら定住・定着を図る取り組みです。
活動期間は最長3年で、平成28年度は全国886の自治体で約4,000人が活動しています。

新たな視点を取り入れる

本市でも、①天草産品のブランド化や商品開発②天草陶磁器のPRと陶磁器産業の発展③まちづくりに外部の視点を加えるために昨年5月から協力隊員を募集し、3人の隊員を採用しました。
新たな視点で生産者や地域を回り、それぞれの経験などを生かした取り組みと協力隊員の天草での暮らしが始まっています。

【問い合わせ先】本庁・地域政策課
(天草宝島国際交流会館ポルト内)

☎2760000

※新和町小宮地の田園風景

■「三方よし」の地域おこし協力隊

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を生かした活動
- 理想の暮らしや生きがい発見

地域

- 斬新な視点(よそ者・若者)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に刺激を与える

地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

陶磁器産業の発展

・全国や世界に窯元を元気にしたい…

天草産品ブランド化・商品開発

・新たな商品を開発したい…
・都市部へ売り込みたい…
・産品や生産者の情報を集約したい…

まちづくりの活性化
・事業の提案やアドバイスが欲しい…
・地域の情報発信、
「U・I・J」がほしい…

新たな天草を掘り起こす



1 天草大陶磁器展実行委員長の金澤一弘氏(左)も期待を寄せる 2 3 初めて参加した「天草大陶磁器展」

天草陶磁器の広告宣伝と陶磁器産業発展への取り組みを支援することが私に課せられた業務です。私が協力隊員に就任したのは「天草大陶磁器展」準備まったただ中の昨年10月。

平成16年に始まったこの催しは14回目を迎え、第1回と比較しても出展者数も来場者数もそれぞれ3倍近く増加しています。この間、若い陶芸家も入門し技術を磨いて

「美しい景色や自然、人の良さに魅了された」

「田舎暮らし」や「移住」ってどんなものかなあと、有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」を訪れたのが1年前。そこで天草の海の写真に惹かれて移住体験ツアーに参加。実際に訪れてみて、美しい景色や自然、そして人の良さに魅了されました。

移住を検討する中で、市が協力隊員を募集していることを知り、好きになった「天草」をアピールする手伝いができればと応募しました。

仕事の都合で都市圏に住んでいましたが、いつかは海のある静かで文化の薫り高い地方に住みたいと思っていた。移住フェアで知った天草市の体験ツアーに参加。受け入れ体制もしっかりしていて、天草で生活するというイメージがわきました。

職を探す中で協力隊員の募集を知り、これまでの経験が活かせるのではないかと応募しました。

「天草の陶磁器産業 発展を目指して」

「いつかは海のある町に住みたいと思っていた」



かずお
小川和生さん (52歳) Interview 2
所属：本庁(別館)・産業政策課 ☎1111

- 千葉県鎌ヶ谷市から倉岳町へ移住。
- 前職は薬品会社でドラッグストアの店舗開発業務を担当し、新規店舗の用地確保から建築、開業準備、開業後の営繕までを担当し、15店の立ち上げに携わった。
- 金焼から倉岳町棚底にかけての海岸沿いから望む島々の景色がお気に入り。

Interview 1
山根ゆみさん (35歳)
所属：本庁(別館)・産業政策課 ☎1111

- 埼玉県所沢市から本町へ移住。
- 前職はコールセンターのスーパーバイザーとして新規事業所の立ち上げやクライアント企業との交渉、スタッフの教育や研修、顧客クレーム対応などに当たっていた。
- 天草西海岸や御所浦町のオリーブ畑から見た島々の景色、河浦町の山腹からの眺望がお気に入りの場所。



「美しい景色や自然、人の良さに魅了された」

「田舎暮らし」や「移住」ってどんなものかなあと、有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」を訪れたのが1年前。そこで天草の海の写真に惹かれて移住体験ツアーに参加。実際に訪れてみて、美しい景色や自然、そして人の良さに魅了されました。

移住を検討する中で、市が協力隊員を募集していることを知り、好きになった「天草」をアピールする手伝いができればと応募しました。

情報発信中！

山根さんは SNS で天草の魅力を発信中です。山根さんが見つけた天草の宝物をのぞいてみてください。

Facebook
天草宝島物産公社

Instagram
amakusa_okoshi

「天草産品を 都市部へ売り込む」

天草には、地域以外ではあまり知られていない産物や地元だけで消費されているものがたくさんあります。地元では当たり前のもので、よそ者の私には新鮮で珍しく感じるものばかりです。そんな各地域の特産物の掘りおこしと発信が主な業務です。

また、都市部の物産展で天草産品をアピールして販売したり、飲食店や商社などへの営業も行っています。生産者のところへ出向き、前職で培ったコミュニケーション力を生かして情報を収集。もっと天草の特産品を掘りおこし都市部につなげていきたいです。



1 2 生産者や商品情報を収集し、データ化。この日は、牛深の塩工房とマンゴー生産者を訪ね話を聞いた 3 昨年11月に東京であった天草移住フェアで、移住体験を話す山根さん

生産者のところへ行く都議会からよく天草に来てくれたねと感謝され、温かく迎えてくれると山根さんは言います。

小川さんは、初めて参加した天草大陶磁器展での作家さんや関係者の皆さんの情熱に驚いたそう。人情味あふれ人と人が触れ合う、都会では考えられない展示会だったと振り返ります。

天草の人は「幸せ」な人が多いというか、不満が少ないんじゃないかなと山田さん。だから欲が少ないというか……

天草の良さや持っている可能性はたくさんあるのに、気づいていなかったり、見過ごしてしまっているのかもしれない。地域おこし協力隊員は、天草の人々以外の視点で新たな一面を見つけ出し、引き出してくれる存在です。

今後、皆さんのもとに隊員が行くことがあれば、出し惜しみせずいろんなことを話してみてください。皆さんとの会話の中に、隊員が活動するためのヒントが埋まっています。

天草の新たな一面を見つけ出し、引き出してくれる存在です。



1 2 下浦町のフットパスコースを
振興会長と下見 3 大江で取れる
「ヒメジ(通称ベンザシ)」を商品化
できないものか思案中 4 各地の
祭りやイベントは、情報収集の場。
写真を撮り、SNSで発信する

ふるさと天草のために

天草には中学校2年まで住んでいました。祖父の家が天草町高浜にあったので、帰省するたびに都会の窮屈さから解放され、豊かな自然に心癒やされてきました。定年も近づき、第2の人生を考える中で天草への移住という選択肢が徐々に大きくなっていきまし

地域の宝を まちづくりに生かす

私の業務は、まちづくりのアドバイスと情報発信支援です。天草市は広く10のまちづくり協議会と51の地区振興会があります。地域の特性や課題も多種多様で、まちづくりに模範回答はありません。そのため、常にいろんなことに目を配り情報に敏感である必要があります。



休日は、各地のイベントなどに参加して情報収集に努めています。そこでは地元で採れた農産物を使った商品・製品の販売もありますし、何より地域の人と直接話ができます。そんな雑談の中にまちづくりに生かせる種やヒントがあると思います。それらと関係機関などにつないで巻き込みながら形にしていく。そんな仲介役になりたいです。



Interview **3** やすし 山田恭史さん (60歳)
所属：本庁・まちづくり支援課
(天草宝島国際交流会館ボルト内) ☎1111

- 東京都新宿区から天草町へ移住。
- 前職では、システム開発などを行う会社に勤務。最新のITや情報処理が自分の強み。
- いつも違った表情を見せてくれる西海岸がお気に入り。休日も、趣味のカメラを片手に各地を巡って情報収集。

※下浦町石場から新和町方面を撮影